

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673200079
法人名	社会福祉法人 正栄会
事業所名	ふるさとの家 郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市東俣町3853番地 (電話) 099-298-8118
自己評価作成日	平成23年8月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

<http://kaken-shakyo.jp/kohyo>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年9月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会や老人会の行事には積極的に参加し、地域との連携・協力体制が密にできている。特に老人会では遠足やレクリエーション大会など多くの行事が実施され、その都度、会員の皆様から声掛けや手伝いがもらえるなど関係性は良好です。

また、ホームの周りには花壇や菜園がふんだんに用意され、季節に応じた花や野菜を利用者と一緒に栽培し、収穫した野菜は食卓に並び、おいしくいただいております。

職員研修はグループホーム協議会へ加入しており、研修参加等を通じ、会員相互の連携を深めている。また、協議会に加入している松元・郡山地区のメンバーが集まり、月一回勉強会を開催し、資質の向上に努めています。

併設している共用型認知症デイサービスを利用している方が入居する際、馴染みの関係(入居者・職員)となり、スムーズな入居ができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・緑の多い自然環境の中にある木造のグループホームである。
- ・自治会や老人会に加入し、地域の一員として、また地域の中のホームとして、連携や交流を図りながら協力関係を保っている。
- ・市の担当者とは連携を密に取りながら、ケアにあたっている。
- ・運営推進会議においても家族・地域の方々が参加して充実した会議となっている。
- ・職員は、自己研鑽のための研修会にも極力参加しており、日々のケアの向上に取り組みを行っているとともに、資格取得にも挑戦している。また、理念を基に、明るく・仲良く・笑顔で仕事をしており、働きやすい職場となっている。
- ・行事の折には、多くの家族の参加があり、ホームの職員と親しく交流している。また、家族は日常的にも、管理者・職員と話しやすい雰囲気である。

## L棟

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域住民として生活を送りながら、入居者一人ひとりがゆっくりとした生活が送れるような理念を掲げ、職員は理念に基づき実践している	地域密着型のサービスの意義を踏まえた事業所の理念を、日々のケアの中で振り返っている。また、職員会議等で話し合いを行い、地域の方々との交流を図りながら実践している。	
2 2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らしつづけられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会に入会し、行事には積極的に参加している。消防訓練では地元の方が駆けつけてくださり、連携が保たれている	地域の自治会や老人会に加入していて、旅行や文化祭・夏祭り等の行事に参加している。事業所の避難訓練にも地域住民に参加してもらったり、日常的に地域住民との交流が図られている。	
3	○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の文化祭や夏祭りなどで作品を展示したり、写真・資料などで取り組みを紹介している		
4 3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題を家族から公募し、その中から利用状況を詳しく知らせるために、文書と写真を付けてはとの意見を頂き、請求書発送時に利用状況と写真を添付し、家族から喜ばれるようになった。	運営推進会議の開催は定着しており、利用者の支援についてや自己評価・外部評価についての報告や地域行事への参加の話し合いを行っている。また、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域ケア会議等で関係部署担当者や包括支援センターとの情報交換を行い、連携を図っている	市の担当者や地域包括支援センター等の職員との連携は、出向いたり電話で話したりと日常的に行っている。また、事業所の実情やサービスの取り組みについても相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を行い身体拘束がないよう努めている。言葉による拘束がないよう気をつけている。鍵はすべて開放している	身体拘束廃止委員会を中心に、マニュアルに基き研修を行っている。代表者や全ての職員は、身体拘束及び言葉の拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関や共用スペースともに施錠はしていない。自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、防止に努めている。デイ利用者に関しては入浴時、あざ等がないか確認するようしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行っているが、管理者が関係者と話し合い、活用を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者から説明している。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時を利用し、意見を聞くようしている。また、状況変化時は電話にて説明し、運営に生かしている	利用者・家族の意見や要望は、面会時や行事の時や運営推進会議の時等、職員が声かけを行い話をしている。「居室の移動について」等の要望について話し合いを行い運営に反映させてい		
11 7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回全体会を行い、意見交換している。代表者へは法人連絡会を通じ、意見を述べる機会を設けている。	全体会議やユニットごとの会議で意見交換を行い、話し合いを行っている。出された意見は、運営に反映されている。		
12	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が週一回ホームを訪れ、職員へ話しかけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	個々の勤務実績に応じた研修に参加している。全体会で発表し職員へ学んだことを伝えている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	月一回業務終了後、地域の施設が集まり、勉強会をしている。その際に交流を重ね、切磋琢磨している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、要望などよく話を聞き、安心して生活が出来るよう		
16	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・希望等に考慮しながら、よい関係が保てるように心がけている		
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する時は、居宅支援事業所や他GHなどを紹介し、親身になって対応している。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること・できないことを見極め、家事や炊事など積極的に行えるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族へ普段の生活を状況表として、2ヶ月に一回報告し、状況を共有している。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	今まで付き合いのあった方の名前や関係性を少しでも把握し、会話の中に取り入れたりしている	親戚や友人が訪ねてきたり、墓参りや地域の行事にも参加したりして、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者の性格を理解し、職員が間に入るなど工夫し、支援に努めている		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	転居及び入院した際も、家族から相談を受け、対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>全てに対して希望に添えない部分もあるが、その都度できる限り努めるようにしている。できない部分に対しては、話をして最良の方法を職員と話し合う。</p>	<p>日々の会話や表情から、一人ひとりの暮らし・行きたい所・食べたい物等、本人の希望・意向の把握に努めている。困難の場合は、表情を見て、話し合いをしながら把握に努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>会話の中で昔の事を聞いたりして、情報収集している。家族面会時に情報収集したことを確認するようしている</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入居者の状況（体力・精神面）に応じ、ゆっくり横になる時間や活動的になる時間などメリハリのある生活が送れるようにしている</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>管理者や職員と話し合いを持ち、家族の意見を加味し、プランを立てている。日常生活を見ている職員ならではの現状にあった計画作りをしている</p>	<p>モニタリングは、3ヶ月に1回行っている。利用者・家族・職員等と話し合いを行いながら、介護計画を現状に即して作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気になることをケース台帳に記録していく、プラン変更時の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時はかかりつけ医に連絡し、病院受診に行くなど柔軟な対応をしている		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会の行事には積極的に参加し、地域の方との交流を持て楽しい時間を作っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又は家族の希望するかかりつけ医を受診している。状況変化あるときは、こまめに連絡取り、適切な医療が受けられるようしている。	診察は、利用者や家族の希望を大切にしており、入居前からのかかりつけ医に継続して受診できている。事業所は、主治医とも連携を取って、適切な医療支援を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員やかかりつけ医の看護師と連携を密にし、連絡・相談ができるような体制を作っている			
32	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできるだけ面会に行き、情報収集している。また、随時家族と連絡を取り合い、早期退院へ向けて医療機関・家族と連携している			
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいく	終末期の取り組みはしていないが主治医・本人・家族とよく話し合い、適切な機関へ移行している	本人・家族、主治医とも重度化した時のあり方を話し合っている。事業所としての重度化の指針はできているが、終末期については、家族とも話し合いながら医療機関で対応することとしている。		
34	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	入居者の急変時や事故に備えて定期的に研修を受け、実践に備えるようにしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、地域の方・ご家族の協力を得て訓練を行っている	夜間想定での避難訓練を年2回行っている。地域住民との協力体制ができており、訓練にも参加してもらっている。非常食や備品についても準備がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊重した声掛け・対応をすると共に、職員間でも注意しあっている。	言葉かけやトイレ誘導や食事介助なども含め、日々のケアの中で、人生の先輩として人格を傷つけないように配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、話しかけによって希望をたずねたりする。すぐに判断できない方に対しては、時間をかけて自己決定できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過したい方、体調によっては横になりたい方など自己決定が出来る方はしていただいているが、自己決定できない方は職員ペースになりがちである		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で着替えられる方はしていただき、できない方も自己選択できるよう声掛けしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は年々難しくなってきており、簡単な座ってできる食材切りなどはしていただいている。また、下膳や食器洗いなど一緒にしている	利用者は、配膳・下膳・食器洗い等、できることは、職員と一緒に行っている。食事も職員と会話をしながら行っている。職員は、利用者が食事を楽しむことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下障害のある方は流動食で対応している。また、栄養の偏り（肉・魚）がないように調理している。食事・水分量は常にチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。本人ができないときは、職員が行い、口腔内の点検をしている		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人にあった排泄リズムを理解し、失敗のないよう支援している	一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握しながら、トイレ誘導を行っている。ほとんど、昼間は普通のパンツとリハビリパンツを使用しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をもとに便秘にならないよう働きかけている。また、水分を多く取ったり、運動をするなど心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日はおおむね決められているが、失禁時または汗をかいたときなど臨機応変に対応している	入浴日は一応決めているが、本人の希望に合わせていつでも自由に入浴できるように支援している。個浴や二人で入る等、入浴が楽しみになるように声かけを行いながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望により、横になっていただき、居室の温度を快適な温度にしてゆっくり休めるようにしている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬一覧表があり、職員が共有できるようにしている。また、新しく処方された場合は申し送りノートに記入し、共通認識を深めている		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チマキ作りや餅つきなど季節に応じた催しを行い、出来ることは積極的にしていただき、生活力を引き出している		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	老人会の遠足ではマイクロバスをかりて、遠方まで出かけている。ドライブも季節に応じて行っている。	日常的には、中庭や畑の草取りをしたり、ホームの周り等を散歩している。季節に応じて木陰でお茶を飲んだり、地域行事への参加や老人会の遠足・花博覧会・動物園等に出かけている。車椅子の利用者が多くなっているが、地域の方々の協力で楽しく外出支援ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理しているが、本人がほしいと思ったものは預かり金の中から、必要に応じて購入している		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望すると職員が電話をかけて本人へ変わっている。家族から電話が来た時は、子機を使い、自室で電話するなどプライバシーに配慮している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席は決まっているので、混乱はほとんどない。冷暖房は温度管理の下、調整しているので快適な空間となっている。季節の花を飾り、和んでいただいている	共用空間は、木造で木のぬくもりの感じられる作りになっている。ウッドデッキがあり、大きな窓から芝生の中庭が見える。玄関・廊下・トイレはバリアフリーで、対面式のキッチンから利用者の様子がよく見える。テーブルには季節の花が飾られ居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所でひとりになれるのはトイレだけ。利用者同士で話をしたり、テレビを見たり自由に過ごしている。独りで過ごしたい時はゆっくり過ごせるような配慮をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>布団や衣類は使い慣れたものを持参していただいている。家族の写真や飾り物は家族や本人とよく相談して、持参していただいている</p>	<p>家族とも相談しながら、利用者が使い慣れたタンスや仏壇・家族の写真・時計等を置いて、居心地よく過ごせる居室への工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを設けて、移動がしやすいようにしている。床は天然材を使用し、歩行しやすい素材となっている</p>		

## V アウトカム項目

		<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目 : 36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

		<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない